

北海道乳業協会会員における今冬の節電対応について

平成25年10月9日

北海道乳業協会

道内の乳業の特徴

- 1 途絶えることのない製造原料（生乳）の供給
- 2 道内生産量の約2割が飲用、約8割が乳製品に仕分け、
- 3 乳業工場は全道に設置

電力の安定供給が必要な理由

- 1 生乳生産を停止させることは不可能
- 2 製造工程の中断より不良製品が発生
- 3 コンピューターで管理されていることから、停電により制御が不能に
- 4 保管貯蔵製品の凍結により不良製品が発生

昨冬の節電の取組

- 1 各社とも最大消費電力の7%以上を削減
- 2 操業の工夫等による消費電力ピークを平準化
- 3 節電運動を実施

今冬に向けた節電の取組

- 1 節電目標を設定
- 2 操業の工夫等による消費電力ピークを平準化
- 3 節電マニュアルを作成したり、節電運動を準備

今冬の不安

- 1 製造コストの増加
- 2 発電施設導入のリスク
- 3 計画停電の影響
- 4 計画停電回避緊急調整プログラムの実施

牛乳・乳製品の需給構造

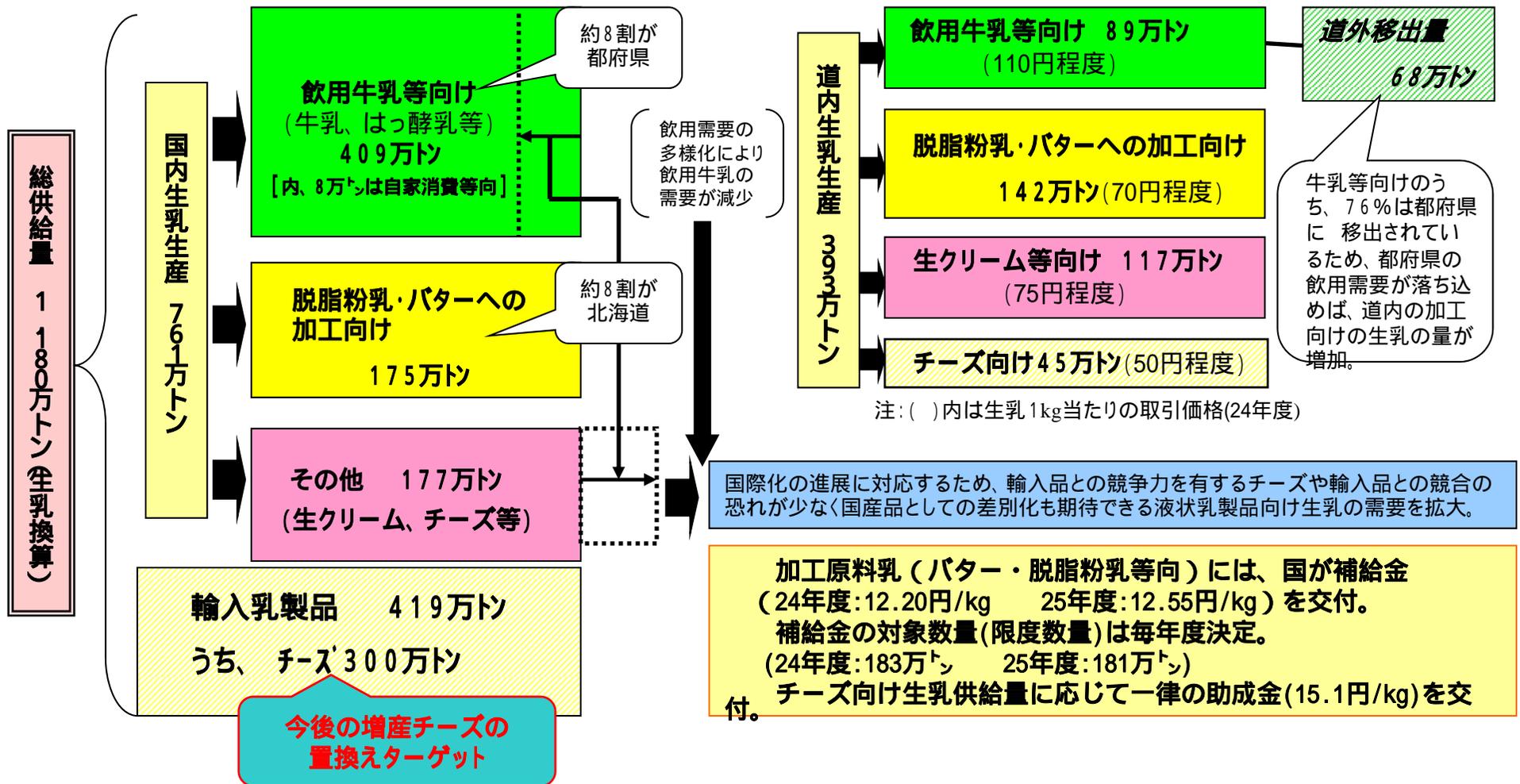
我が国の牛乳・乳製品の総供給量は生乳換算で1,180万トンで、国産が761万トン、輸入が419万トン。

需要の35%は飲用牛乳等向けで、全量を国産生乳で供給する一方、需要の65%を占める乳製品については国産と輸入で概ね半分ずつ供給。

北海道の国内生乳生産量のシェアは5割以上。道内生産量の約2割は飲用、約8割は乳製品に仕向け。

【全国の生乳需給(24年度)】

【北海道の生乳需給(24年度)】



乳業工場配置状況(24年度実績)
〔生乳処理1万トン/年以上〕

工場名 (主要製品)

下記以外の大手乳業工場
 (株)明治根室工場(練乳・生乳)
 同 札幌工場(飲用・はっ酵乳)

